

稲荷山重伝健地区まちづくりデザイン

概要版

令和5年

千曲市教育委員会



稲荷山重伝建地区まちづくりデザイン



■ 修理済・修理中・次年度修理予定の伝統的建造物

これまでの総修理事件数 15 件 修景件数 2 件

稲荷山地区は範囲が広く、修理をすすめても街並みが「整った感」が生まれなかった。地区内に3つの重点区域を設け、積極的に修景を呼びかけるとともに、ストーリー軸としたまちづくりデザインを進める。

重点エリア A

震災復興と稲荷山の成立を知る文教エリア

ストーリー概要	構成する主な建物等	課 題	措 置
長雲寺、倉石家、松林家など、稲荷山宿の面影を残す建物がならぶ。善光寺地震の震災復興後の「稲荷山の幕末の風景」を学べる空間。 蔵し館や長雲寺など、静かな雰囲気歴史を学ぶことができるエリア。	・蔵し館 ・長雲寺 ・松林家住宅 ・倉石家住宅 ・山丹 ・水路の石垣	・修理・修景が進んでいない。 ・蔵し館の活用が不十分。 ・各施設をつなぐ仕掛けが必要	・修理・修景の推進 ・耐震改修・イベントの充実 ・長雲寺と連携したイベント開催。

重点エリア B

商都稲荷山の繁栄を知る建物を味わう観光エリア

ストーリー概要	構成する主な建物等	課 題	措 置
稲荷山宿に由来する「鍵の手」を有し米清、田中園、カクイチなど商都の繁栄を示す建物が連続する稲荷山の「象徴的景観」が残る。 小公園があり、漫画館に近い。田中園をはじめ、修理を先行しているエリア。	・米清 ・増田家（塩友） ・田中園茶店 ・カクイチ ・清水家（カクタ） ・蔵がならぶ裏通り ・小公園 ・漫画館 ・水路の石垣	・修理が進んでいるが、街並みが整わない ・空き家・空き店舗の増加 ・どれが伝統的建物がよくわからない	・修景呼びかけの推進 ・移住定住と空き店舗利用の推進 ・特定物件への小プレート設置

重点エリア C

メリヤス産業の遺産と魅力的な裏小路を歩く散策エリア

ストーリー概要	構成する主な建物等	課 題	措 置
八幡から善光寺道を通り、稲荷山の玄関口にあたる。メリヤス産業の関連施設、極楽寺の参道と土蔵群など、繊維業の繁栄を今につたえる。 極楽寺や土蔵の並ぶ小道が特徴的なエリア。	・小出家住宅 ・旧六十三銀行本店 ・極楽寺 ・極楽寺周辺の裏小路 ・わきゅう ・日新堂 ・江戸屋	・小道に風情がない。 ・修理が進んでいるが、街並みが整わない ・空き家・空き店舗の増加	・道路の美装化をすすめる ・修景呼びかけの推進 ・移住定住と空き店舗利用の推進

稲荷山重伝建地区まちづくりデザイン 骨子

住民： 市民・自治会 ◎ 中心になって取り組む
団体： 文化財関係団体 ○ 協力して取り組む
市： 千曲市

保存計画に記された事項 (平成26年)

まちづくりを進める上での現状と課題

理 基 念 本

方 針		まちづくりの具体的な取り組み									
細別方針	取り組み	取り組みの内容	取り組み主体					実施期間			
			所有者	住民	団体	専門家	行政	短期 ～ 3 年	中期 ～10年	長期 10年～	

保存整備の方向
外観を保存するため修理をすすめる 「修理基準」に基づいて修理を行う

環境の整備等
伝統的建造物以外の建物は「修景基準」「許可基準」を適切に運用して修景を行う。
歴史的まちづくり法に基づく事業を検討する
路面の舗装・側溝の改良 電柱・架線の移設及び地下埋設化 公告・看板への指導
歴史的価値理解、見学者利便性を図る 説明板・案内板・標識の設置

保存の方向
地区住民はもとより、全市民的な理解と協力を求めるとともに、地区住民の意向を尊重しながら、保存活用をすすめる。

管理施設等
各種情報の発信、見学者との交流、調査研究のための施設として、既存施設の活用を進めるとともにその充実に努める。

防災計画策定・防災施設等
防災計画の早期策定 自主防災組織の育成 火災報知器消火器の設置 防火訓練の実施

稲荷山地区の歴史に関する課題
課題1 建物の建築年代を裏付ける史料や外観を知る写真の充実が必要である。 江戸時代以前の土地の変遷を示すデータが不十分である。

建造物の保存に関する課題
課題2 修理制度の周知が不十分である。 特定物件が老朽化している。 修理を相談する設計士が限られる。 修理費用がかかりすぎ、修理に複数年がかかる。 所有し続けることに負担感がある

街並みの整備に関する課題
課題3 伝統的建物とその他の建物がモザイク状に交じり、街並みが整わない。 車の往来が激しく道路を歩きにくい。小道に風情がない。 来訪者の駐車場がない。 空き家・空き店舗が増加している 地区の全体像やどれが特定物件がよくわからない。

住民等との連携に関する課題
課題4 市民との連携が不十分なままに事業が行われており、市民団体と文化財部局が相互に活動を理解していない。 担当部署が歴史文化財センターのみになっている。 稲荷山の魅力を知ってもらう活動の充実が必要である。 地域総がかりで伝建地区を守る体制が必要である。

稲荷山の拠点づくりに関する課題
課題5 既存施設が十分活用できていない。 祇園祭の際に四神を置く場所が欲しい。 稲荷山見学の大きな拠点が無い。

災害に関する課題
課題6 災害への備えが十分ではない。

地域とともに
に
繁
栄
を
守
り
・
伝
え
・
創
る
・
北
信
濃
の
商
都
稲
荷
山

稲荷山を調べる		把握が不十分でない稲荷山の文化財を重点的に把握する									
方針 1	建物の歴史を調べる	1	古文書・写真の調査	地区内の文書、自治体史所有の古文書、個人所有文書の実態を把握する。	○	○	○	○	◎		
		2	特定物件の調査	修理の基礎となる建物の調査を進める。	○			○	◎		
		3	重要文化財候補建物調査	重要文化財指定に向け、候補建物を調査する。	○			○	◎		
	土地の歴史を調べる	4	稲荷山城確認調査	稲荷山城の範囲を確認するための調査を進める。	○			○	◎		
		5	江戸時代の大火調査	大火の範囲を確認するための調査を進める。	○			○	◎		

稲荷山の建物を守る		計画的・効果的な修理をすすめる											
方針 2	伝統的建造物をきれいに する	1	調査希望の確認	説明会・説明冊子を作成する。				○	○	◎			
		2	修理事業の実施	ガイドラインの検討・説明冊子の作成。				○	○	◎			
		3	重点的な修理の呼びかけ	歴史的景観が残るエリアを中心に重点的に修理を働きかける。	○	◎	◎	○	◎				
		4	設計士の育成	設計士向けの説明会・ヘリテイジマネージャーの協力体制の構築。				○	○	◎			
		5	補助率上限の再検討	補助上限の再検討 他自治体の事例研究						◎	◎		
		6	助成内容の再検討	特定物件・修景建物など土地税の減免措置などを検討する。						○	◎		

方針3	稲荷山の街並みを整える	稲荷山の街並みをかつての姿に整え、繁栄を伝える											
	街並みをきれいにする	1	条例の策定・見直し	街並みを整えるための緩和条例等を整理する。					◎	◎			
		2	修景ガイドラインの作成	修景を推進するためのガイドラインをつくる。					○	◎	◎		
		3	修景の呼びかけと実施	重点的に街並みを整備するよう働きかけを進める。					◎	◎		○	
		4	許可基準の明確化	明確な許可基準を作成し、検討委員会と運用方針を共有する。								◎	
	道路・歩行空間をきれいに にする	5	道路・歩行空間の美装化	道路等の舗装を変更する。							◎		
		6	交通計画の見直し	地区内の自動車交通量を低減するための方策を検討する。					◎		◎	◎	
	駐車場を確保する	7	駐車場の整備	個人来訪者と団体来訪者の駐車場用地を確保する。							◎		
	空き家・空き店舗を減らす	8	用途変更の条件整理	用途変更に必要な基準・条例等の整備を行う（その他条例など）。								◎	
		9	活用方法の検討	空き家・空き店舗の活用方法を検討し、保存活用計画の策定を進める。					◎	○	○	◎	◎
		10	空き家・移住定住政策との連携	空き家対策や移住定住政策との連携を図る。									◎
	伝統的建物を伝える	11	活用者の発掘	若者が利用・活用しやすい環境を提供する。					◎	◎	◎	○	◎
		12	特定物件への看板設置	特定物件であることがわかる小プレートを設置する。					○				◎
13		案内板の設置	地区内外に案内板を設置する。					○		○		◎	

稲荷山で交わる		住民と連携し、歴史的町並みを利用した地域の活性化を図る											
方針 4	市民との連携・情報共有 をすすめる	1	住民・行政の勉強会・懇談会の開催	ワークショップ・座談会・講演会等の開催（年1回）。	○	○	◎	○	◎				
		2	稲荷山関連団体の意見交換会	文化財関連団体の相互交流と意見聴取を進める。	◎	◎	◎	◎	◎				
		3	協働事業・地域づくりの支援	協働事業の協力・地域づくりのアドバイザー協力	○	○	○	○	◎				
	関係部署との連携をすすめる	4	役所内の連携体制の構築	定期的に市役所関係部署間で情報共有する機会を設ける。					◎				
		5	地区情報の発信	SNS・HPなど対外的な情報発信を進める	○	○	◎	○	◎				
	稲荷山の魅力発信・観光 をすすめる	6	ガイドの充実・文化財見学ツアー実施	日本遺産ガイドを契機としたガイド体制の充実。文化財の見学ツアーの実施	○	○	◎	○	○				
		7	利益循環の確立	収益確保と保存活動が連動した仕組みを検討する	○	○	○	○	○				
	伝建地区を見守る	8	窓口的組織の立ち上げ	文化財関連団体を中心に窓口的組織の立ち上げを検討する。			◎	◎	○	○			
		9	検討委員会の開催	開発案件について住民の視点から審議を進める。	○	◎	◎	◎	○	○			
		10	伝建審議会の運営	開催頻度を増やすなど、機動的な審議会のあり方を検討する。	○	○	◎	◎	◎				

方 針	稲荷山に集う	文化財を守り伝えるコアとなる拠点施設を整える									
5	既存の施設を活用する	1	蔵し館の活用	耐震改修工事を行い、企画展示、イベントを充実させる。			○	○	○	◎	
		2	信金跡地の整備	信金跡地について活用の方策を考える。	○	○	◎	○	◎	◎	
	新たな拠点を作る	3	鍵の手土地の整備	拠点施設としての整備するための土地を買い上げ、整備を検討する。	◎	○	○	○	◎	◎	

方 針	稲荷山を災害から守る	災害から文化財を守る									
6		1	防災の計画づくり	歴史的な街並みを維持するための防災計画を作成する。	○	○	○	○	◎		
		2	防災計画の周知	防災計画の内容を地区内外に周知する。	○	○	○	○	◎		
	災害からまもる	3	防災設備の整備	防災設備の整備を進める。	○	○	○	○	◎		
		4	防災訓練の実施	稲荷山地区を対象とした防災訓練を実施する。	○	○	◎	○	◎		